

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：近畿地方整備局地域道路課

担当課長名：浜野 利彦

事業名	主要地方道 吉備金屋線 <small>きびかなや</small>	事業区分	地方道	事業主体	和歌山県
起終点	自：和歌山県有田郡有田川町明王寺 至：和歌山県有田郡有田川町徳田 <small>ありた ありたがわ みよおうし ありたがわ とくだ</small>			延長	4.7 km
事業概要	主要地方道吉備金屋線は、国道42号と国道424号という広域幹線道路網を担う両国道を連絡する道路である。また、阪和自動車道有田ICへのアクセス道路でもあり、広域的ネットワークを形成する。				
H11年度事業化	H8年度都市計画決定	H11年度用地着手	H12年度工事着手		
全体事業費	112億円	事業進捗率	71%	供用済延長	2.8 km
計画交通量	7,700~9,800台/日 (2/2)				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.3 (残事業) 7.3	総費用 (残事業)/事業全体 20/115億円 事業費：19/111億円 維持管理費：1.3/3.2億円	総便益 (残事業)/事業全体 149/263億円 走行時間短縮便益：144/253億円 走行経費減少便益：3.9/10億円 交通事故減少便益：0.64/0.48億円	基準年 平成20年	
感度分析の結果	残事業について、感度分析を実施 交通量変動：B/C=7.4 (+10%) ~7.3 (-10%) 事業費変動：B/C=9.0 (-10%) ~6.1 (+10%) 事業期間変動：B/C=7.7 (-1年) ~7.4 (+1年)				
事業の効果等	国道42号と阪和自動車道有田IC、国道424号とを結ぶ広域的ネットワークの形成。 現道の渋滞緩和、交通安全の確保。				
関係する地方公共団体等の意見	和歌山県町村会（有田川町長）より、当バイパス早期完成の要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	阪和自動車道（海南～有田IC間）の4車線化工事中。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	東側2.8 kmについては供用済みであり、有田ICから供用済区間までの間についても平成21年度供用に向け工事を促進している。国道42号から有田ICまでの間については、用地取得を進めている。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	有田ICから東側については平成21年度での供用、平成20年代半ばでの全線供用を目標としている。				
施設の構造や工法の変更等	再生資源利用等により、今後ともコスト縮減に努めることとしている。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考える。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。